

多摩市子ども・若者・子育てプラン（素案）に対するパブリックコメント結果

実施期間：令和6年12月16日（月）～令和7年1月10日（金）

提出者：3人（全て公式ホームページ専用フォーム）

延べ意見数：8件

このほか、2件意見がありましたが、記入要件を満たしていなかったため、意見や市の考えの公表は行いません

	該当箇所	意見	市の考え
1	—	子どもを預ける方向ばかりに力を入れていて、親が向き合わなければならない時に上手くいかず育てにくさを感じると思う 時短を取っても暮らしていけるためのサポート金が出た方がわかりやすいし、子どもへの負担もない、親も子どもと向き合えると思う また預けたくても高齢のボランティアが預けることへ不安を感じる 保育士への負担が多いと保育はできなくはないが質が下がる	現在、健康センターや子ども家庭支援センター等で、様々な家庭の相談支援を行っています。また、今年度5月に開始した「こども誰でも通園事業」は、保護者が孤立した育児の中で抱える不安や悩みを、保育士等に相談できる機会とすることも目的としています。今後は、子どもとの関わり方や子育てに悩みを抱えている親子が、適切な関係性の構築を図っていけるよう「親子関係形成支援事業」の実施に向けて検討を進めます。 市では、子どもの最善の利益を第一に考え、それぞれの家庭の多様な価値観や考え方を尊重し、保護者が深刻な不安や悩みを抱えることなく子育てを楽しむことができるよう、また、子ども・若者、保護者それぞれの課題に応じた支援ができるよう、引き続きさまざまな事業を実施していきます。 また、保育の質については、保育所等の園長会とともに、研修等を通して保育の質の確保に努めます。 いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。
2	—	どこの自治体、国も親が子どもと離れられるようなものばかり。育休推奨や育休サポートなどがあると良いと思う	上記のとおり、個々の課題に応じた支援策のひとつとして、市でも、「こども誰でも通園事業」等の子どもを預ける事業を実施しています。 一方、育児休業の推奨やサポートも重要です。雇用保険法等の改正

	該当箇所	意見	市の考え
			により、令和7年4月から「出生後休業支援制度」などが拡充されることになっています。 ご意見として承ります。
3	—	幼児～高校の教育の質の向上をはかるために、誘致や政策を掲げると企業や若年層の家庭が集まりそう 高校は一校しかなく遠くまで通学しなければならない人が多いので、中高生の教育に力を入れる政策があると、定住しようと思うか	高等学校等の誘致については検討していませんが、引き続き幼稚園、小・中学校、高等学校、専門学校、大学と連携・協力をした活動を、事業者や地域とともに推進します。市の教育も含めて市の魅力として発信し、子育て世帯の定住や転入促進に向けて取り組みます。 また、教育の質の向上については、「第二次多摩市教育振興プラン」等に基づき取り組みます。 いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます
4	—	どこの自治体も同じような未就学児支援をしているが、会社での補助や時短を取れなくなるのは小学生以降 小中高生世帯への預かりではなく補助金などが出ると他の自治体との差別化が出るのでは？ 都心から離れているので預けやすいよりも早くこちらに帰れた方が街も活気づくし、力を入れているわかりやすい政策があったほうがここに住んでいきたいと思うのでは	子育て家庭への経済的な支援については、素案 100 ページ以降に記載した施策に取り組みます。市が独自に小中高生世帯への補助制度を創設することは困難ですが、今後も国や東京都の動向に応じて取組を検討します。 ご意見として承ります。
5	—	都市計画も見て、駅周辺に綺麗なマンションが建ち人が新しく住めるようになると子どもたちのために企業や塾なども集まり、結果見守りに繋がりそう	聖蹟桜ヶ丘駅や多摩センター駅の周辺では集合住宅の建設が進んでいます。地域で子ども・若者の成長を見守ることができるよう、地域協創の推進を図っていきます。 いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。
6	4 章 基本方針 3 施策 (2) 具体的取組①	聖蹟桜ヶ丘や多摩センターで集合住宅が急速に増えています。ファミリー層をターゲットとした物件が多い様に感じます。 今後、子育てに関する需要が大きくなるのは明らかです。 その様な状況下で放課後児童クラブの待機児童の目標値が低過ぎ	学童クラブ（放課後児童健全育成事業）の需要は、令和 6（2024）年度実績で 1,762 人でしたが、令和 11（2029）年度には 1,462 人となり、少子化の影響で減少していく見込みです（素案 117 ページ）。ただし、これは総数であり、地域間の偏在が大きく、需要動向が読

	該当箇所	意見	市の考え
	89 ページ	と思います。 待機児童 0 を目指していただければと思います。	めない面もあります。 ご意見のとおり、聖蹟桜ヶ丘駅や多摩センター駅の周辺ではマンション建築に伴うファミリー層の転入が見込まれる一方、施設定員に空きが大きく生じる地域も出てくると推測しています。また、待機児が発生していても 5 年以上先になると学齢期を過ぎ、施設定員に空きが出てくる事例が多くあり、新たな学童クラブ施設の設置による対策は難しい状況です。 そこで、放課後子ども教室の週 5 日実施を拡大することで放課後の子どもの居場所を確保していくことに注力していきたいと考えています。 いただいたご意見については、今後の検討にあたり参考とさせていただきます。
7		子ども部門の計画なので学校の話が出てこないのはしょうがないと思いますが、子育て世代の急増に伴う、教育機関の整備が今後どの様になるか不安です。（他の計画に記載がある様でしたら申し訳ありません。）	少子化が進む以前、既存の施設で多くの児童を受け入れていたことから、新たに施設を設置することは考えていません。 学校施設の整備についての大きな考え方としては、現在策定中の「第二次多摩市教育振興プラン（改訂版）」へ掲載する予定です。 また、施設の安全性と機能性の確保に必要な予防保全を図る改修と老朽化対応の改修を行う場合は各学校の特性を見極めつつ、「第二次多摩市ストックマネジメント計画」に基づきながら対応を図っています。 いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。
8	4 章 基本方針 3 施策（2） 具体的取組① 89 ページ	学童期から思春期までの切れ目ない支援を行い、学童保育の充実を図るという方針があります。共働きが増えている現状において、安心して小学生を預けられる施設があることは非常にありがたいです。そこで、待機児童だけでなく、小学校と学童保育の移動についても考慮いただきたいと思います。	市としては、小学校の敷地内への学童クラブ移転を進めていく方針です。 現時点で具体的な計画の提示はできませんが、順次学校敷地内のスペースの確保、待機児の状況、施設の老朽度合い、財源の動向などを勘案しながら、進めていきたいと考えています。

	該当箇所	意見	市の考え
		現在、多摩第三小学校、瓜生小学校、豊ヶ丘小学校、聖ヶ丘小学校には小学校に併設された学童保育がなく、最寄りの学童保育も徒歩5～10分程度の距離にあります。昨今の温暖化の影響か、7月上旬でも最高気温が35度を超える日が増えています。低学年であれば、終業が13～14時ごろの最高気温に達する時間になります。この暑さの中、時に大量にもなる荷物を持って丘陵地帯の坂を上り下りするのは過酷と言わざるを得ません。 このため、やむを得ず民間学童保育を選択している保護者もいると考えます。初めから民間学童保育を選択した子どもたちの人数は、学童待機児童に反映されません。 学童待機児童数目標はその後の目標ではないでしょうか。	なお、多摩第三小学校については、同校の建替えに併せて、現在の受入学童クラブである愛宕南学童クラブを同校敷地内へ移設することを検討しています。また、豊ヶ丘小学校については、児童館の今後のあり方基本方針での、現在の受入学童クラブである貝取学童クラブを同校敷地内へ移設する方針に基づき、検討しています。 いただいたご意見については、今後の検討にあたり参考とさせていただきます。

※意見本文は原文のまま掲載しています。